

ICWES14 に参加して - ICWES14 番外編 -

今回、ICWES14 に参加するため、開催地であるフランス北部のリールのほかに、フランス北部に境を接するベルギーなどに行きました。すでに一通りの報告がなされていますので、番外編を担当します。

美男美女

少ない海外経験ではありますが、今回、なんとハンサムな男性が多かったこと。特に印象に残っているのは、リールでの宿泊先のホテルの前で一緒に記念撮影をした消防士さんと、ベルギーのコルトレイクで道を教えていただいた(おそらく)会社員の方。とっても親切で素敵でした。親切にいただいたので、心象も 2 割り増しだったのかもしれませんが。男性がハンサムということは、女性も美人が多かったに違いありません。ホテルの朝食係りはとてもチャームングで、素敵な笑顔でそれはチーズだと教えてくれました(チーズは私にもわかりましたけど)。目が会うたびに笑顔を返してくれて心が和みました。



コルトレイクで見つけたかわいい口

おいしかったもの



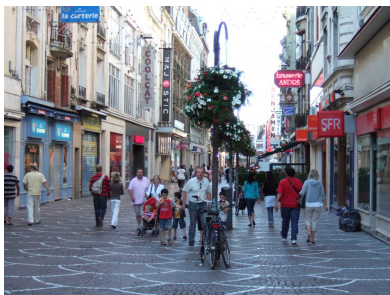
貝トング伝授中

さすが！と思ったのは、ワインです。どこで飲んでも本当においしいし、値段に関係なく(高いのは飲まないのでもわかりませんが)おいしかったです。そして、パンと生ハム。見た目は同じようなバケツでも、お店によって味や食感が違うし、同じお店でもいろいろな種類のものがありました。中に挟んである生ハムも数種類あって、生ハム好きの私には嬉しい限りでした。それから、リールに到着したその日の夜に食べたムール貝。黒くて飯盒を丸くしたようなお鍋にたくさんの野菜が入ったスープ



着いて最初のワイン

白夜



夜 9 時過ぎでこの明るさ

緯度が高いので、なかなか暗くなりません。お天気が悪かったせいかな朝は暗く、夕方になると晴れて昼間のようになり、夜 10 時を過ぎてもうっすら明るいので、夜遊びにはもってこいだと思いました(思っただけです)。実際、地元の人々は夜遅くまでレストランでゆっくり食事をしているし、あまりせかせか仕事をしているようには見えませんでした。地下鉄に乗っても鞆や書類を抱えた人たちを見た記憶がありません。通勤形態が違うのかな、などといつ自分の日常と比較してしまいました。

地下鉄事情

最も印象に残ったのが地下鉄です。切符の販売機も改札も、日本とはまったく違う方式でした。販売機はバーを回転させて希望の切符を表示させます。1枚当りの切符の値段は1種類で、10枚セットだと安くなります。

リールでは高さ1m×15cm四方くらいの柱に切符を入れる隙間があり、そこで切符の角を小さくカットします。これが改札です。電車の中では検札に一度もあいませんでしたので、ただ乗りも可能でした。しかし、見つかった場合は、それは大変なことになるという話でした。地下鉄の扉の閉まるのがとても速く、母の手が挟まれ肝を冷やしました。人が乗り込んでいるのをまったく確認していないようでした。

パリでも切符の買い方はリールと同じでしたが、改札はまったく異なり、日本のように改札機に切符を入れ、出てきた切符を取ってから遊園地にあるようなバーを手動で押して進み、さらに手動で小さな扉を押して入ります。この最後の扉、前の人を押した反動で勢いよく戻ってくるので要注意です。車両は日本だったら廃車間違い無しの代物で、椅子は薄いクッションで通路側にやや勾配があり、揺れると滑り落ちそうでした。

日本ではJRも地下鉄も殆どの駅でエスカレーターやエレベーターを設置しています。しかし、パリでは階段ばかりでした。安全性やバリアフリーの点で、日本が進んでいることを実感しました。また、日本では車内放送で次の駅名をアナウンスしますし、ホームに表示される駅名の両側に隣の駅名も書かれていますが、フランスでは一切そのようなことはありません。パリの地下鉄は路線が10以上もあり、「方面」といった表示はないので、乗り換えるにしても何にしても、終点の駅名を確認して乗らねばならず、気が休まらない思いでした。よく聞く地下鉄内のスリには遭いませんでしたが、乗り物や駅や運行システム自体が日本に比べて危険で不親切だと感じました。

嬉しかったことは、どこに行っても母に即座に席を譲っていただけただけです。日本では悲しいかな、日常的にあまり見かけられないことですが、フランスでは「そうせすにはいられない」といった様子で、習慣として子供の頃から身に付いているものに違いないと思いました。

一方で、お年寄りには席を譲らないと冗談でなく命に関わるとも思いました。また、フランスでは日本のように乗車時間が長く、通勤で疲れ果てているような様子も伺えませんでしたので、その辺の事情も違うのかもしれない。



母さんず in 地下鉄

胃袋の差



リールへ向かう車窓からの風景

初日にシャルルドゴール空港からリールにバスで向かいました。その車窓から見える風景は、白夜で明るい空とどこまでも続くような広い緑の畑です。フランスが農業国なのを実感しましたが、滞在中にこれだけ大きな畑が必要であることを納得することになりました。バケットのサンドイッチしかり、レストランのお料理しかり、その量の多さには、決して小食ではない私もまいりました。フランス人の胃袋は日本人の2倍は確実にありそうです。ホテルの近くのかわいらしいお店で食べたパスタは、

チーズとカリカリベーコンがたくさん乗ったカルボナーラで、塩辛いけどとてもおいしくいただきました。でも、いくら食べても減ったように見えません。降参して1/3くらい残してしまいました。3人の母さん達のお皿は、殆ど食べ始める前と変化ないように見えました。



問題の(?)カルボナーラ

着物

カナダで開催したときのパーティーのドレスコードが民族衣装であったことから、着物を持参するようになりました。今回も、それぞれ個性のある色柄で、みなさん似合っていたと思います。海外では日本の着物は賞賛の対象となります。どんなドレスよりも美しく見えるのではないのでしょうか。そして、日本人には着物がよく似合います。メンバーの中の黒一点として参加されたK村さんの息子さんも、とても注目されていました。S井さんとK保さんはパリでの会食で浴衣を着られましたが、街を行く人から「キモノ？ビューティフル」と話す声が聞こえました。私は一人で着付けができず、いつもS井さんをお願いするのですが、日本でも自分でさっと着付けてちょくちょく着物を着るような生活をするのが夢です(実際は程遠い生活です)。



カクテルパーティその1



カクテルパーティその2



カクテルパーティその3

ICWES14 報告



グリーンベルトの矢車草

ICWES の会場は、地下鉄のカントン駅近くのリール工科大学内でした。駅から大学まで行く途中に矢車草などが植えられていてきれいでした。ここは緑が多く、広々としていて大学の環境としては良い所だと思いました。

ここでも日仏の交通マナーの違いを目の当たりにしたことを思い出しました。道路を横断しようとしたところ、車が来たので立ち止まって通り過ぎるのを待ちました。ところが、車の方で停止し、私たちが横断するまで決して走り出そうとしないでした。心のゆとりが違うのでしょうか。また、同じフランスでもリール

とパリでは人情が違うように感じました。同じホテルでもパリでは係りの人が挨拶もせませんし、地下鉄の案内係の対応が不親切だったりしました。日本同様、都市より地方の方が、生活にゆとりがあるのかもしれませんが。



カントン駅付近の木立

さて、ICWES ではポスターと口頭の2種類の発表がありました。

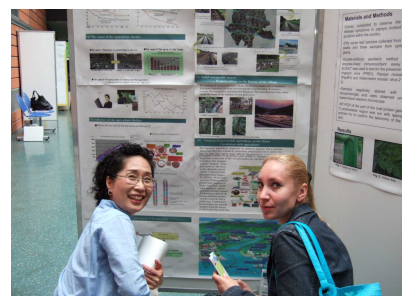
ポスターはいずれも力作で、私たちの活動内容を紹介するものと、メンバーの日ごろの研究成果をまとめたものでした。写真で紹介します。



ポスター発表(会の活動内容)

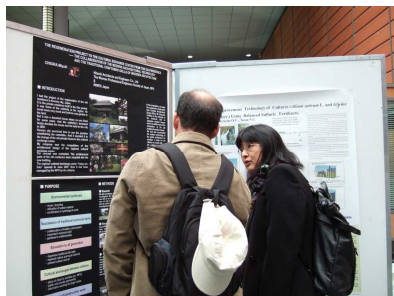


ポスター発表(会の活動内容)

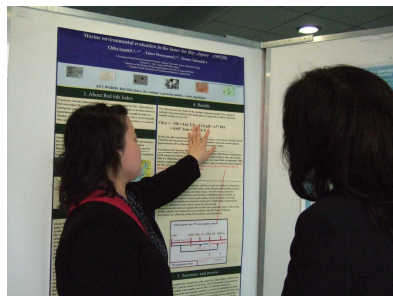


ポスター発表(Rさん)

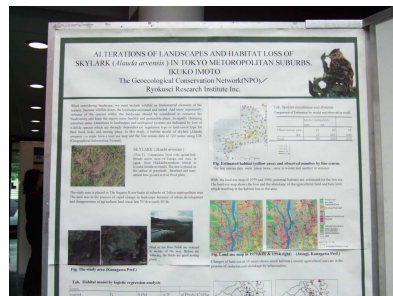
いろいろな国の方たちとの応答もさかんになされ、交流がなされました。私は英語が話せないので、そばにいて参加しているような気分を味あわせていただきました。英語が話せたら、もっと積極的に参加できて楽しいのになあ、と毎回思うのでした。英語習得の妙案をご存知の方がいらっしゃいましたら、是非、教えてください。



ポスター発表(Tさん)



ポスター発表(S木さん)



ポスター発表(さん)

口頭発表をしたのはJICAに勤務するYさんと下水処理の会社を営むK村さんです。お二人とも「水管理」をテーマとしたセッションでの発表で、大学内の教室のひとつで行われました。セッションは10時30分から約2時間、6名が発表しました。Yさんが2番目、K村さんが5番目の発表でした。

Yさんは日本における簡易水道普及の歴史について、昔からの日本の暮らしや女性の役割などを紹介しながら発表されました。生活と密着した水需給の視点は他の発表にはなく、大変興味深い内容でした。外国の方のみならず、日本の技術者にも数十年前の日本人がどのような暮らしをしていたのか、水がいつの時代もいかに大切であるかを知ることのできる発表だったと思います。



Yさんの発表



K村さんの発表



Yさん通訳によるK村さんの質疑応答

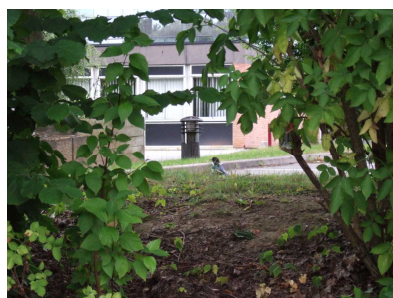
K村さんの発表は、K村さんのお父さんが開発され、K村さんが継承している下水処理システムの説明でした。英語が不得手というK村さんはすべて暗記をして発表に臨まれたとのことでした。大きな声での堂々とした発表はさすがなものでした。会場も一体となって和んでいたように思います。質疑応答ではYさんが手助けをして二人で対応されました。Yさんの通訳にK村さんの身振り手振りが入り、発表以上に盛り上がりました。ICWESの会場がこんなに湧いたことはなかったのではないのでしょうか。



真剣に聴き入る応援団



のどが渇いたらミルクをどうぞ



校内に可愛い小鳥が(どこ?)

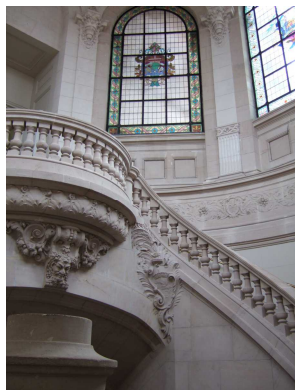
最後に

フランスもベルギーも古い歴史的な建設物が多く残され、現在も使われています。材質が石のため、保存しやすいのかもしれませんが。道路も石畳が多く、風情がある一方で、キャリアバッグを引くには体力を要しました。古いものを残しながら生活の利便性を満足させることは難しいと感じました。最後にこうした建物などを紹介します。



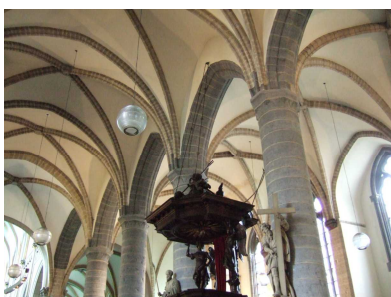
リールの博物館

ここで ICWES のジャズパーティが行われました。



博物館の内部

天井が高く、レリーフなどがみごとでした。地元の小学生でしょうか、社会見学らしき光景が見られました。子供の頃から本物に慣れ親しむ...羨ましく感じました。



ペギン協会のアーチ

同じ様式は行く先々でよく見られました。重なり合った曲線が美しかったです。



コルトレイクの食器屋さん

かわいらしい模様のティーセット。喉から手が出るほど欲しかったです。ユーロは高いし、写真で我慢です。



ブルージュの住宅

窓辺にペゴニアでしょうか、赤い花が飾られていました。白い壁にマッチしてきれいでした。



ブルージュの住宅地で

住宅の窓辺に飾られていたかわいい犬の絵です。ベルギーの人も犬や猫が好きなようです。なんとなく嬉しい...



ベルサイユ宮殿

これほど広大な建造物を見たことはありません。一部屋に日本の家屋がすっぽり入りそうでした。写真の庭園の下にも庭園が広がり、さらにその先には大きな運河、森に隠れてトリアノン宮殿などがあります。くたくたになりましたが、見て納得しました。



ノートルダム寺院

美しいとの評判どおりのステンドグラスでした。ちょうど日曜日の礼拝が行われており、大勢の人がお祈りに訪れていました。日本では味わえない雰囲気になれました。

ICWES14を通して、また、はじめてフランスとベルギーに行き、歴史や生活における日本との違いなど、いろいろなことを感じ、多くのことを学びました。

まだまだ報告しきれないこともあります。別の機会にお話できればと思います。

(K.S記)